

2022年4月4日

がん治療の充実

胃がんロボット支援手術の保険診療開始

【ここがニュース！】

令和4年2月より、胃がんに対する手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた腹腔鏡下手術の施設基準を取得し、保険診療を開始しました。今回取得したダビンチを用いた腹腔鏡下手術の施設基準は、ダビンチにて胃がん手術を10例以上（うち1例は胃全摘）を行った医師がいること、胃がんの手術件数が厚生労働省の定める件数を実施していることなどの要件を満たす必要があり、静岡県内で施設基準を満たし保険診療を行っている医療機関は、当院が5番目、中部地域では静岡県立総合病院に次いで2番目となります。

当院は、平成28年10月に手術支援ロボット「ダビンチ」を導入し、「前立腺全摘除術」を開始、現在は「腎部分切除術」や「膀胱全摘除術」など、泌尿器科では症例数が年々増加しています。

一方、胃がん手術に対するロボット支援下手術は、令和元年7月から導入し、実績を重ね施設基準の要件を満たしました。

ダビンチによる胃がん手術は、数カ所の小さな切開部から手術を行うため腹壁の傷が小さく、また、精度の高い手術操作が可能で術中出血も抑えられ、手術後の回復が早く、患者さんの負担が軽減できるなどのメリットがあります。

※平成30年4月の診療報酬改定により、手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた腹腔鏡下胃切除術が保険適用されました。

とき

ところ

詳細

- 参加者：()
- 次第等：
- 取材対応：
- 報道駐車場：

取材のポイント

- 手術支援ロボット「ダビンチ」とは
従来の内視鏡手術と同じようにいくつもの小さな切開部を作り、3Dモニターを見ながら医師の遠隔操作で内視鏡・メス・鉗子を動かして腹腔鏡手術を行う装置。
- ロボット支援下手術の特長
 1. 鮮明な3D(3次元)画像
モニターには高画質で立体的な3Dハイビジョンシステムの手術画像が映し出される。
 2. 精密な動きを再現
ダビンチの鉗子はリスト構造を持ち、人間の手より大きな可動域と手ぶれ補正機能を備えているため、細密な動きによって機能が温存できる可能性が期待できる。

私が担当者です：島田市立総合医療センター 事務部 経営企画課

電話：0547-35-2111 FAX：0547-36-9155

当日の担当者：経営企画課 企画広報係 吉永恵理

担当者からの一言：今後もがん治療の充実を目指し、地域医療に貢献します。